

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを理念としている。第2期中期目標期間においては、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成することや、地域と世界の発展に寄与する先端的な研究を推進すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「富山大学若手研究者等の学術交流・発表会」として若手研究者等によるポスター発表を実施し、学部・分野の枠を越えて情報を共有し、共同研究につなげるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

看護の教育・研究基盤を確立し、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成するため、大学院医学薬学教育部看護学専攻（大学院博士後期課程）を新設しているほか、教育研究組織の再編に向けた検討体制を強化するために、分野ごとに検討する組織を設置し議論を進めている。また、新たに年俸制を導入し、積極的な切替えを図った結果、86名の教員に適用している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 男女共同参画に係る積極的な取組

国際的視野を持ち高い能力を有する女性研究者の育成や、女性の上位職への登用機会向上を目的として「意識を変える」「組織を変える」「環境を変える」を三本柱に、国際シンポジウム企画・開催の助成や女性の採用・昇任へ積極的な部局への支援、保育コンシェルジュの配置等を行っている。

○ 組織の機能別集約による効率的な大学運営

教育・学生支援機構及び研究推進機構の新設並びに地域連携推進機構の再編により、教育、研究、社会貢献の機能別に組織を集約し、機動的かつ効率的な大学運営を行っている。

○ 部局長のリーダーシップ発揮に向けた経費支援

部局長がリーダーシップをより発揮するため、学部長等裁量経費を「部局長リーダーシップ支援経費」に改めるとともに、1億円(対前年度比8,800万円増)と大幅に増額しており、配分に当たっては、機能強化・ガバナンス強化等に関する評価指標(富山県内就職率、女性教員数等の9項目)を設定し取組状況をポイント化の上、反映している。

○ 外部委員の参加による公正な人事選考

女性研究者の上位職への登用を公正に行うため、各部局の人事選考委員会に男女各1名の外部委員を参加させることとし、この制度を活用して、芸術文化学部の教授及び准教授選考が実施されている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 分野別評価基準に基づく第三者評価の受審

医学部において、医学教育の国際通用性を確保するため、臨床実習を大幅に増加したカリキュラムへと変更するとともに、医学教育分野別評価基準に基づく第三者評価を受審している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 個人情報の不適切な管理

水素同位体科学研究センターにおいて、個人情報を含むパソコンがウイルス感染していた事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

○ 不適切な労働管理

大学附属病院において、労働基準法に違反する事例が判明していることについては、適切な対応が取られているものの、法令遵守に対する意識の醸成を図るとともに、法令に則った業務運営を引き続き実施することが望まれる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 医学教育の向上に資する取組

医学部において、医学教育を円滑かつ効果的に行うため、医学教育全般を一元管理する「医学教育センター」を新設するなどの基盤整備を図るとともに、同センターにおいて、教育プログラムの評価体制及び臨床実習PDCAサイクルの構築、医学教育IRとして授業評価・国家試験成績等の分析、卒前・卒後教育の連携強化等を実施することで、医学教育改革に対応した教育システムの企画及び情報収集、教育支援等を推進している。

○ 若手研究者等による学部の枠を越えた研究発表会の実施

教育・研究機能等の水準の向上を図るため、「富山大学若手研究者等の学術交流・発表会」として若手研究者等55名によるポスター発表を実施することで、学内の研究活動の向上や、学部・分野の枠を越えた共同研究につなげるとともに、優れた成果・取組を共有している。

○ 地方創生に向けた田辺市との共同研究の実施

地域連携推進機構において、和歌山県田辺市と「田辺市と地域連携推進機構との人材育成の連携に関する覚書」を締結し、田辺市が推進している「価値創造プロジェクト」の地域政策実践のために職員育成と事業推進への共同研究活動を行うとともに、地域資源を生かした田辺市の地域創生に対する取組のノウハウの吸収を図っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 臨床試験の包括的管理体制の整備

「治験管理センター」を「臨床研究推進センター」に改組し、ヒトに関する臨床試験（治験・自主臨床試験・受託研究・先端医療等）を一括して取り扱うことにより、先端医療開発から最適な医療の提供までの全臨床試験を包括的に管理する体制を整備している。

(診療面)

○ 心疾患に対するカテーテルを用いた低侵襲性治療の推進

「経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）実施施設」の承認を受け、1名の患者に対しTAVIによる手術を実施し成功しているほか、「経皮的心房中隔欠損閉鎖術（ASO）実施施設」として日本小児インターベンション学会（JPIC学会）による認定を受け、5名の患者に対してASOによる手術を実施し成功している。

○ がん遺伝相談体制及び多職種連携による包括的腎移植診療体制の構築

集学的がん診療センター内に「がん遺伝相談部門」を開設し、乳がん・卵巣がんの遺伝カウンセリング・遺伝子検査の体制を整備したほか、「腎移植外来」を開設し、腎移植患者及び献腎移植待ち慢性腎不全患者に対して、腎臓内科・泌尿器科の専門医と各診療科の専門医に加え、レシピエントコーディネーター（看護師）や薬剤師らが協力して、腎移植後や献腎移植待機期間の診療を行う体制を整備するなど、がん及び腎移植診療体制を強化している。

（運営面）

○ 地域連携の強化及び増収に資する取組

病病連携及び病診連携の強化により、地域医療との役割及び機能の分担を図った結果、紹介率96.0%、逆紹介率55.5%（平成26年度比：紹介率 15.0ポイント上昇、逆紹介率2.8ポイント上昇）を達成している。また、病名登録の流れに関するマニュアル作成や診療科への説明会を行い、病名登録等が速やかに行われるようにすることで保留額の解消・縮小を図った結果、診療報酬請求額は目標に対して約4億2,600万円の増、収入額では目標に対し約2億7,400万円の増を達成している。

○ 患者の利便性の向上に資する施設整備

新外来棟完成に伴い、立体駐車場との連絡通路を整備し、車いすでの移動や悪天候時でも支障なく駐車場との通行を可能とすることで、患者の利便性や安全面の向上を図っている。